土砂災害

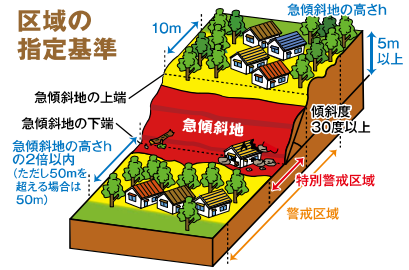
土砂災害警戒区域などに指定された区域は台風や集中豪雨、地震によって大きな被害を受けることが考えられます。梅雨や台風の時期には十分な警戒が必要です。また、雨が止んでからも発生することがありますので、前兆が現れた場合は、安全な場所へ避難しましょう。

土砂災害に関する情報入手
- ●気象庁発表の危険度分布（気象庁）
- ●土砂災害危険度情報（福岡県県土整備部砂防課）
- ●土砂災害警戒区域等マップ（福岡県県土整備部砂防課）

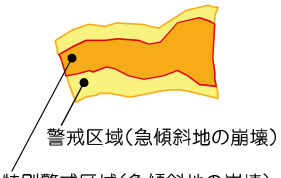
急傾斜の崩壊（がけ崩れ）

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。

区域の指定基準



ハザードマップの表示



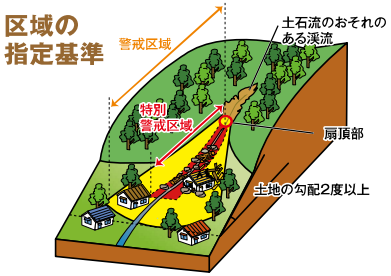
前兆現象

- ■がけに割れ目が見える。
- ■がけから水が噴出する。
- ■がけから小石がパラパラ落ちてくる。

土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって、一気に下流へと押し流される現象です。

区域の指定基準



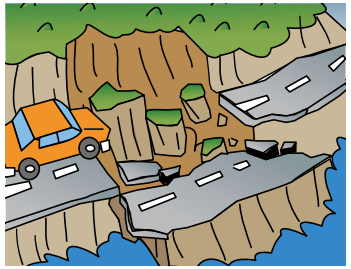
ハザードマップの表示

前兆現象

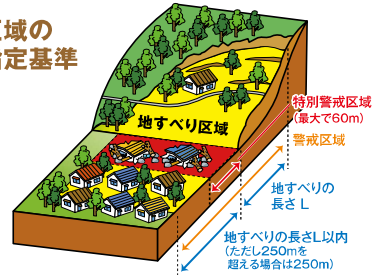
- ■山鳴りがする。
- ■川の流れが濁り、流木が混ざりはじめる。
- ■雨が降り続いているのに川の水位が下がる。

地すべり

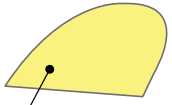
斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって斜面下方に移動する現象です。



区域の指定基準



ハザードマップの表示



筑紫野市に特別警戒区域（地すべり）はありません。

前兆現象

- ■地面にひび割れができる。
- ■沢や井戸の水が濁る。
- ■斜面から水が噴き出す。

●土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨警報発表後も雨が降り続き、土砂災害発生の危険度が高まった時に、福岡県と福岡管区気象台が共同で発表する情報です。情報は市町村単位で発表され、市の防災活動や避難情報の判断を支援し、市民の皆さんの自主避難の判断にも利用できます。

土砂災害警戒情報が発表された時は、いつ土砂災害が起きてもおかしくない、非常に危険な状態です。土砂災害の前兆現象を感じたら、早急に避難をしましょう。

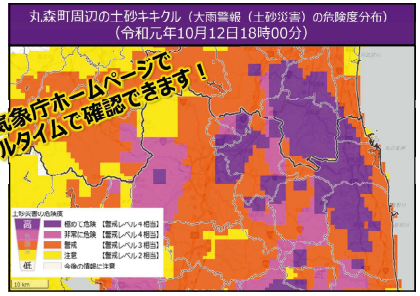
気象庁等による気象情報

大雨注意報
大雨によって災害が起こるおそれがある状況

大雨警報
大雨によって重大な災害が起こるおそれがある状況

さらに大雨が続くと

土砂災害警戒情報
大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、都道府県と気象庁が共同で発表



※気象庁ホームページより（一部加工）

色が持つ意味	説明
極めて危険	過去の重大な土砂災害発生時に匹敵する状況 命に危険が及ぶ土砂災害がすでに発生していてもおかしくない極めて危険な状況。この状況になる前に避難を完了しておく。
非常に危険	命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況 遅くともこの時点で速やかに安全な場所への避難を開始する。
警戒（警報級）	避難の準備を整え、早めの行動を心がける。 高齢者等は速やかに避難を開始する。
注意（注意報級）	ハザードマップ等で避難行動を確認する。 今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。

●土砂災害の種類

土砂災害が発生するおそれのある区域として、土砂災害警戒区域・特別警戒区域を県が指定しています。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域

危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

がけ崩れ等の土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域

特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。